

● オリンピック特別委員会

オリンピック特別委員会

新艇の準備が着々と進んでいます

北京五輪のセリングチームは3種目がチャーター艇、3種目が自艇での参加となります。49er、470はともにニュージーランドのマッカイボートで建造された艇を日本に輸入し、神奈川県・綾瀬市のパフォーマンスセイルクラフトの工場では49erはリグチェックや最終整備を行い、博多で練習する選手のもとにゴールデンウィークあけに届けられました。

470は女子が2艇、男子が1艇の新艇を五輪本番用に、同じくマッカイボートで建造しましたが、こちらはベアハルで日本に輸入されたので、フィッティングから最終整備までをパフォーマンスセイルクラフトの工場で行いました。新艇の艀装の打ち合わせを行い、選手が4月にヨーロッパ遠征している間に女子の2艇をまず仕上げ、4月末からこの2艇が走り始めると、今度は男子の1艇にとりかかるという非常にタイトなスケジュールでした。男子艇が2週間ほどできあがると、今度は女子がオランダへ遠征し、そのまま6月まで戻らないため、中国むけのコンテナがでるまでの間にボトムを磨き仕上げるという作業になりました。そして、オランダの大会に出ない男子が、6月に入るとヨーロッパ選手権に遠征するため、引き続き、男子艇のボトムを磨き、6月10日に中国むけのコンテナに入れたしいです。

PSJの小林さん、荒川海彦さんはアテネ五輪の際には関・轟組の艇を準備した経験を活かし、今回もいろいろなアイデアを出して、作業してきました。懲りすぎて、ちょっと失敗したところもありましたが、ボトムの仕上がりは非常にスムーズで、特にトランサムに触れてみると驚くほどの仕上がりになっていました。

計測で心配なのはマストの重量と松永艇のセリングウェアでしょうか。近藤艇は艀装品が多いので、逆にちょっとダイエットが必要かもしれません。どちらの艇も青島で事前練習をへたあと、7月27日にオリンピックハーバーへ引っ越してから最後の調整を行い、120kgぎりぎりを目指していきます。



中国むけのコンテナは5月27日に東京から2本、和歌山から1本、6月10日に東京から2本を送りました。和歌山からの分はリーファーコンテナ（冷房の入るオフィスコンテナ）で、残りの4本に470x4艇、レーザーx2艇、49erx1艇、コーチボートx7艇、自転車13台、かばん類30個、工具箱10個を積込みました。これで、合宿2回と本番1ヶ月を乗り切ります。

